

会員近況



徳島県庁
吉野川北岸農業水利対策室 吉田 良治

私たち農業土木技術者は農業土木学会に所属し、農業基盤整備事業、主として干拓、かんがい排水、農道、ダム、圃場整備等の各種の事業推進に当たっているが、これからの農業土木においては農村計画の部門がその重要性を増やしてゆくものと考えている。したがって従来の土や水やコンクリートに関する力学的研究から、今後はプログラミングを主体とした地域工学・環境工学的な要素が重要になっており、都市計画におけるさまざまな知見を参考にするとともに農村の自然に関する生態学、あるいは農村社会学等の研究成果を十分参考にしてゆく必要性に迫られている。このように農業土木は新しい学際領域への転換期にあり今後ますます行動科学とりわけORの応用が有意義になってくると思うのである。農業土木関係者でOR学会に入っている人はまだ少ないと思われるが、静かな郷里徳島にあって、悠々と新しい数理科学の動向を味わってゆきたいと思っている今日この頃である。

富山県立技術短期大学
応用数学科 丸山 義博

施設園芸、特に加温室を利用して栽培される花卉や野菜苗の生産者は、立地条件、生物学的諸条件等、栽培上の諸条件と、栽培技術を検討したうえで、加温室の合理的な利用による、より高い収入を得るために、その生産開始にあたり、主幹作目を中心に、永続して生産できる作目を決定して栽培しています。

著者は、5年ほど前に、加温室を利用して、鉢花や野菜苗を生産している生産者と知り合いになり、以後、たびたび加温室を訪れ、同時に、本学の先生の協力を得て、植物の生態学の勉強に、実験、観察あるいは文献調査等を繰り返すようになりました。そして、2、3年ほど前から、鉢花栽培を中心に、それを、生産・在庫モデルとして、生産者、市場および大学の諸先生方の協力を得て研究を始め、今日に至っています。

川崎信用金庫
事務部電算管理課 山崎 好恭

「アンドロイドの完成に人類は幾世紀を待つこともな

いと思われませんが、現在、私たちは、情報分析や決定分析等のソフトウェアへの対応に着手し始め、その可能性に思惑を秘めている時期にあるようです」

と書き出せば、何か馬鹿々々しい文章であると自他ともに認めざるを得ません。

しかしながら、歴史を顧みて、将来を展望すると、必然的に浮かぶ一節であり、大きな歴史の流れの中で、私たちソフトウェア分野の人間の「現在」という断面を、このようにとらえることもできると思います。

上記のように仮定した場合、私たちは、積極的にOR関係理論の応用を現実社会のあらゆる分野に展開して、汎用性の高い精緻なソフトウェアに育ててゆく責任があると考えなければなりません。ただしここで注意すべきことは周知のとおり与件との対応を考慮することです。

そこで、賛否あると思いますが、私は、「学問は、現実社会を各分野から分析し、そのからくりを解明して体系化し、過去の誤った行動を顧て、社会の予測とみずからの行動計画をとるためにある。」と確信しております。

したがって、実際に役立つものでなければ、学問といえる水準に達していないと考えております。

このシビアさを守り続けようとする信条を大切にしつつ、私たちはOR発達の一翼を荷って研究し続けていきたいものです。

兼松江商株式会社
大阪支社計数部 須田 章義

約10年前にORと出会い、現在は商社の中でコンピュータとともに仕事をしています。業務の中には、各種多様でORの題材として不足のない問題が豊富にあります。が、残念ながら雑務(?)に忙殺されて何ひとつ実践できない自分に歯痒さを感じています。しかし、ORとは理論的なことだけでなく多面的な視野から問題を考えて柔軟な結論を見出す努力をしています。

コンピュータはインプット・プロセス・アウトプットと一応、3段階に分割されますが、それぞれが深い関係で有機的に結合され、インプット=各種の業務データ：プロセス=システム：アウトプット=各種の帳表数字：のどれをとっても分析・検討を誤っても問題の解答を導くことが難解になります。現在は、プロセスおよびアウトプットはある程度の専門の人たちが分析・検討を行なうので相互の関係をチェックできますが、インプットの個々まではことこまかくはチェックが不可能なために、いかにしてこれを正確に把握するシステムを考えるかが、将来にも残される問題であり、OR的な考えが最も生きてくると思います。OR万歳!